

第26回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成26年8月20日（水） 13：00－13：50

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

（1）委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

（2）政府側

山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、阪本内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事次第

（1）宇宙政策委員会 基本政策部会 中間取りまとめ（案）について

（2）その他

5. 議事

冒頭、山本大臣から以下のような挨拶があった。

山本大臣：

- ・本日は、宇宙政策委員会第2期スタート後、初めての委員会。この素晴らしいメンバーで今後2年間宇宙政策を審議いただけることを嬉しく思う。
- ・宇宙政策をめぐる環境は大きく変化しており、安全保障と連携した宇宙政策の在り方や、産業基盤の維持強化に資する中長期ビジョンについて検討していく必要がある。
- ・本委員会の審議内容を基に、今後の宇宙政策の「骨太の方針」が作られていくことになるため、本日の議論は極めて重要。精力的なご議論をお願いしたい。

（1）宇宙政策委員会 基本政策部会 中間取りまとめ（案）について

「宇宙政策委員会 基本政策部会 中間取りまとめ（案）」について、資料1及び資料2に基づき、中須賀部会長から説明を行った後、審議を行った。審議の結果、資料1及び資料2については、一部修正の上、委員会として了承された。なお、修正については委員長に一任された。（以下、○質問・意見等、●回答）

- 「宇宙政策委員会 基本政策部会 中間取りまとめ（案）」は、戦略というより5～6年の戦術の方向が打ち出されているという印象を持った。中長期の戦略が必要だとうたってあるが、より長期のビジョンの検討がまだやや不足している。宇宙の開発は、科学の世界でも技術の世界でも10年一単位という大型プロジェクトで進むので、やはり3サイクルという30年先をにらまないといけない。また、我が国の宇宙関係の技術、知見が、我が国の全体の安全保障だけでなく、資源安全保障や、エネルギー安全保障においても役に立つ、というトーンが少し欠けている。30年後に日本はこういう宇宙政策をやって、こういう宇宙産業をつくろうというビジョンが欠落している。特に資源問題について宇宙が貢献できると私は思っており、書いてほしい。

2点目は、読んでいるほうは3本柱で整理されたほうがわかりやすいかなという印象を持っている。このままではちょっと中間報告としては読みにくい。(松本委員)

- 1点目の30年、50年というのは、ご指摘の通り、検討する必要がある。ただ、30年、50年たつと社会の仕組み、それから技術も大きく変わるということで、30年、50年のビジョンをただ議論するだけでは、今やらなければいけない戦術というのはすぐにはなかなか見えてこない。

今回の基本政策部会の検討は、政策として実現するということを最重視して、実行可能性の高い今後10年の計画をしっかりとつくっていかうということである。そういうことをしていかなないと、今すぐの安全保障の問題、及び産業界の衰退という問題には対応できないので、まずは実行可能性の高い計画をつくることに重点を置いたという趣旨だったと御理解いただきたい。(中須賀委員)

- 私はそのように理解していない。この宇宙政策委員会で中長期の議論をしましょうということを決めていただいたわけである。まずは10年というのは、全く正しいと思う。しかし、それで先が見えないとなると、産業界も乗ってこないし、国民の支持も得られにくい。日本は宇宙をどう利用しようとしているのか、非常に幅広い国の安全性を考えていかないといけない。

これは必ずしも軍事に関係するようなことだけではなくて、あらゆる意味で日本国は、放っておけば沈没していく状況にある。問題の解決に宇宙が貢献できるということを明確に打ち出して、少なくとも、30年後の日本が抱える諸問題について宇宙が本当に貢献できるかどうかを検討すべきである、という文章は入れるべきである。(松本委員)

- 長期というのが30年とか50年だというのは全くそのとおりだと思うが、今回の作業の目的は、具体的な政策、端的に言えば予算に結びつくような形で宇宙産業の衰退をとめなくてはならないということ、あるいは緊急の課題に対処する重点事項をプライオリタイズしなくてはならないということ。ご指摘の点は共通の認識として皆持っていることは間違いない。ただ、今回中間取りまとめを出すことの意義というのを考えると、やはり20年といってもなかなか難しいのだが、20年を展望して10年のプランをつくっておこうということで一歩前進させようと考えた、非常にプラグマティックな作業である。(葛西委員長)

- 基本政策部会であるから、委員長ご指摘のように政策に落とさないと具体的に意味がないというのはよく理解している。しかし、宇宙戦略という言葉を使うのだったら、やはりもう少し長期ビジョンのことも書かれていないといけない。(松本委員)

- その産業界への対策対応策として、今後10年で、どこでどれぐらいの衛星がつけられるかがわかるということは産業界にとっては非常に大きな前進である。まずは毎年毎年の予算措置ではなくて、10年を一つと捉えて、その10年のトータルの予算の中で何をどのタイミングでやるかということをもっと明確にするというのが今回の一つの我々の命題だったと理解しており、まずはそこを明確にすることが、産業界が投資を行っていく上でも非常に大事だと我々は認識をしている。また、技術試験衛星のような少し長期な視点で提案も行っているということで、必ずしも今あるものだけを入れたものではないと考えていただきたい。(中須賀委員)

○例えば災害に使えるということもずっと議論してきたが、今回の中間とりまとめに災害というのは出てこなくて、いわゆる周辺の国同士のあつれきみたいなものが全面に出ている。それは緊急性があるのだが、宇宙が国民にサポートされて期待されるためには、日常生活あるいは自分たちの子供の時代の生活に大きく貢献するのだという強い意思をどこかでやはり書いておかないといけない。中間報告でなければ最終報告でもよいが、必ずそれは示さないといけない。それが次の世代をつくるのである。

もう一つは、人材育成のことも2カ所書いてあるが、人材育成はフレーズの中に埋め込むのではなくて、柱を立てないといけないのではないか。（松本委員）

●基本的な考え方として、いわゆる衛星の中長期計画をつくろうというところからスタートしており、必ずしもまだ宇宙基本計画に出てきている全ての項目を網羅したわけではない。今はまだ中間取りまとめの段階であり、これをベースに、これから年末、秋に向けて検討を進めていく中で、宇宙基本計画の中に含まれているのにここには取り上げていないことも含めて検討していくつもりである。その中で松本委員ご指摘の点も入れていかなければいけないと個人的には思っている。（中須賀委員）

○松本委員が言われたような視点、例えばエネルギーの問題であるとか、あるいは人材育成の問題などについても、今回の主課題ではないけれども、より大きな長期の課題としてある、ということが踏まえられていることが見て取れる文言を入れることでどうか。（葛西委員長）

○松本先生がご指摘の点は非常に大事だと思うのだが、これは年末に向けて、安倍内閣の骨太の方針みたいなものにまとめていくという大きな流れがあるわけである。これは担当大臣としてもしっかり後押しさせていただくつもりだが、最終報告の中に、松本委員ご指摘の理念の部分を入れるというのはあり得ると考える。一方で、これまで1年8カ月の間に、こういう方向づけはなかった。衛星やインフラ整備についてここまではっきり書いたこともないので、これは明らかに一歩前進していると思う。そういう意味では少し経済界にとっては一歩踏み込んだ方向性になっていると考える。本日の中間取りまとめが安倍内閣の方針になれば、経済界に対してもインパクトがあるのではないか。（山本大臣）

○科学・探査部会においても30年を見据えた議論をしなければいけないという話もあったが、これは中長期ビジョンの中間取りまとめというので、全部省いた。要するに中間取りまとめであるから、最終的なところで全部きちんと書けばいいだろうという判断である。（松井委員長代理）

○最終的に宇宙基本計画を修正するという形になるといいと思っているが、そうなったときには、いろいろな部品もそろえるという形はとっていくべきである。今回はかなり目的を明確にした中間取りまとめである。ただ、その中でも、今言われたようなご意見を文章でどこかににじませるような形で修文するというので、その辺はお任せいただきたい。（葛西委員長）

○私の意見の取り扱いについては、委員長並びに部会長にお任せする。（松本委員）